

二項ヲ削除シ第三條ノ次ニ左ノ條項ヲ追加シ大正二年度ヨリ施行ス

第三條ノ二 前條第一項第三號第五號ノ物件ニシテ同一名稱ノモノニ以上アルモノハ番號ヲ以テ區別整理ヲ爲スヘシ

固定資本整理規程中不備ノ點ニ付左ノ通追加シタリ

專賣局長官達丙第一三一七號 (大正二年五月五日)

明治四十五年四月丙第一二九〇號專賣局所屬固定資本整理規程第二號書式備考ニ左ノ一號ヲ追加シ大正二年度ヨリ施行ス

四 補足及修理費ノ内供用先ヨリ通知ヲ受ケタル費額ヲ包含スルトキハ其ノ金額竝ニ局所名ヲ當該備考欄ニ記載スヘシ

第七節 旅費及諸給與

鹽專賣費支辨ニ係ル旅費支給規程ヲ左ノ通制定セラレタリ

大藏省訓令第二八號 (明治三十八年四月一日)

第一條 鹽專賣費支辨旅費ハ内國旅費規則及明治三十年九月當省達第二〇一二號ニ依ルノ外此ノ規程ニ依リ支給スヘシ

第二條 鹽務局事務官及技師其ノ所屬鹽務局管内ノ巡回旅費ハ左ノ通支給ス

汽車賃 一哩	船賃 一海里	車馬賃 一里	宿泊料 一夜	日當 一日
四 錢	四 錢	拾 八 錢	壹圓 貳拾 錢	八 拾 錢

第三條 監視收納賣渡指定引渡及專賣取締ノ爲メ鹽務局屬及技手本局直接管轄區域内ノ巡回旅費竝出張所在勤屬及技手其ノ管轄區域内ノ巡回旅費ハ日額八拾錢以内ニ於テ適宜其ノ額

ヲ定メ之ヲ支給スヘシ但交通至難其ノ他特別ノ事情アル地方ニ在リテハ認可ヲ經テ日額壹圓五拾錢迄増額スルコトヲ得

本局直接管轄區域内ノ巡回ニシテ前項ノ日額ヲ適用シ難キ事情アルトキハ認可ヲ得テ普通旅費ヲ支給スルコトヲ得

第四條 内國旅費規則第九條ニ該當スルトキハ高等官ハ一日四拾錢判任官ハ一日參拾錢、雇員ハ一日貳拾五錢ノ車馬賃ヲ支給ス

在勤廳所在地ト別ニ區分ヲ要セサルモノハ在勤廳所在地ニ準シ前項ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第五條 一晝夜中日額旅費ヲ支給スヘキ旅行ト其ノ他ノ旅行ト跨リタルトキハ日額旅費ニ關スル規定ヲ適用セス

第六條 普通旅費ヲ支給スヘキ旅行ニシテ一晝夜中數種ノ用務ニ跨リタルトキハ其ノ主ナル用務ニ依リ普通旅費ヲ支給スヘシ但シ赴任旅行ニハ之ヲ適用セス

日額旅費ヲ支給スヘキ旅行ニシテ一晝夜中數種ノ用務ニ跨リタルトキモ亦前項ニ準ス

第七條 旅費額ヲ減少セントスルトキ又ハ別ニ日額旅費ヲ設ケントスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第八條 第三條ノ支給額及第四條第二項ノ區域ヲ定メタルトキハ支給額、區域及施行期日ヲ申報スヘシ

鹽專賣法施行細則第二十條ニ依ル鑑定人ノ手當旅費支給方左ノ通令達アリタリ

大藏省令第二十七號 (明治三十八年四月二十一日)

鹽專賣法施行細則第二十條第二項ニ依リ選定シタル鑑定人ノ手當旅費支給方及同條第四項ニ依リ再鑑定申立人ノ負擔スヘキ費用左ノ通相定ム

第一條 鹽專賣法施行細則第二十條第二項ニ依リ鑑定ニ從事シタル者ニハ鑑定事務從事日數

ニ應シ一日金貳圓ノ手當ヲ支給ス但シ官吏ヨリ選定シタル鑑定人ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 鑑定人公務ニ依リ旅行シタルトキハ左ノ通旅費ヲ支給ス但シ前條ノ手當ヲ支給スヘキ場合ニハ汽車賃船賃車馬賃ノミヲ支給ス

汽車賃一哩ニ付	船賃一海里ニ付	車馬賃一里ニ付	宿泊料一夜ニ付	日當一日ニ付
四 錢	四 錢	十 五 錢	一 圓	五 十 錢

第三條 旅費支給ノ方法ハ内國旅費規則ニ準據ス但シ同規則第九條ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 鹽專賣法施行細則第二十條第四項ニ依リ再鑑定申立人ノ負擔スヘキ費用ハ鑑定人ノ手當旅費及再鑑定ニ要シタル實費トス

鹽務局旅費支給規程中左ノ通改正セラレタリ

大藏省訓令第五十八號 (明治三十八年七月二十二日)

明治三十八年^四月大藏省訓令第二八號旅費支給規程第三條中「專賣取締」トアルヲ「鹽藏物其ノ他検査」第七條中「認可」ヲ受クヘシ「トアル」ヲ「適宜其ノ額ヲ定メ施行以前ニ支給額及施行期日ヲ申報ス

ヘシ」ト改ム

鹽務局ニ於テ制定スヘキ旅費支給細則ノ統一ヲ圖ル爲メ主稅局ニ於テ其ノ準則ヲ定メ左ノ通各鹽務局ヘ内牒シ之ニ依リ各鹽務局ヲシテ適宜細則ヲ定メシメタリ

大藏省主稅局長内牒主秘第四七一號 (明治三十八年七月二十八日)

過日特設鹽務局長會同ノ際旅費支給例ニ關スル各局ノ規定區々ニ涉リ權衡ヲ失スルノ嫌有之ニ付是等準則ヲ定メ通牒ノ義多數ノ希望ニ有之即チ別紙ノ通起草及回送候條參相成度

追テ從來ノ支給方等ヲ改メラレ候ハ、寫添附御申報有之度

鹽務局旅費支給細則準則

第一條 鹽專賣費支辨旅費ハ明治三十八年^四月大藏省訓令第二十八號旅費支給規程ニ依ルノ外此ノ細則ニ依リ支給ス

第二條 監視、收納、賣渡、指定引渡及鹽藏物其ノ他検査ノ爲メ屬及技手其ノ在勤廳所在地外ノ巡回旅費ハ日額何程トス

第三條 左ニ掲クル町村ノ巡回ハ在勤廳所在地ニ準シ日額旅費ヲ支給セス

本局管内	何町、何村	所在地中央ヨリ巡回スヘ
何出張所管内	何町、何村	キ町村ノ中央マテ一里内
何倉庫收納區域内	何村、何村	外マテノモノヲ掲ク

第四條 在勤廳所在地及準所在地内ノ巡回ニシテ車馬賃ヲ支給スルハ左ニ掲クル町村字ニ限ル

本局管内	何村、何村字、何	所在地中央ヨリ巡回スヘ
何出張所管内	何村、何村字、何	キ町村字ノ中央マテ一里
何倉庫收納區域内	何村、何村字、何	内外ニ互ル地域ヲ掲ク

第五條 常時本局又ハ出張所所在地外ノ倉庫詰ヲ命セラレタル者ニハ其ノ命免ノ際ニ限り普通旅費ヲ支給ス
（倉庫事務所内勤務中ハ旅費ヲ支給セス）

第六條 收納、賣渡及指定引渡事務ノ補助ニ從事シタル見習員ノ巡回旅費ハ技手支給額ニ同シ

第七條 收納、賣渡及指定引渡事務補助ノ爲メ雇員其ノ在勤廳所在地外ノ巡回旅費ハ日額何程ヲ支給ス

旅費支給規程ハ諸物價ノ昂騰アリテ旅費額増加ノ必要アルノミナラス稅務及樟腦事務トヲ一定スルヲ可トシ左ノ通改正セラレタリ

大藏省訓令第六號（明治四十年三月十九日）

第一條 稅務監督局、樟腦事務局及鹽務局ノ經費ニ屬スル旅費ハ内國旅費規則及明治三十九年五月往第五九八六號當省達ニ依ルノ外此ノ規程ニ依リ支給スヘシ

第二條 土地検査、問稅検査及輸入稅拂戻調査ノ爲メ稅務署員其ノ所轄内ヲ巡回シタル場合ノ旅費ハ左ノ日額範圍内ニ於テ適宜支給額ヲ定ムヘシ

土地検査 日額 一圓十錢以内

問稅検査及輸入稅拂戻調査 日額 九十錢以内

雇員ノ土地検査補助 日額 九十錢以内

第三條 樟腦及樟腦油專賣ニ關スル取締ノ爲メ樟腦事務局員本局直轄區域内ヲ巡回シタル場合

及出張所員其ノ所轄内ヲ巡回シタル場合ノ旅費ハ日額九十錢以内ニ於テ適宜支給額ヲ定ムヘシ

第四條 鹽專賣ニ關スル監視、收納、賣渡指定引渡、鹽藏物其ノ他検査ノ爲鹽務局員本局直轄區域内ヲ巡回シタル場合及出張所員其ノ所轄内ヲ巡回シタル場合ノ旅費ハ日額九十錢以内ニ於テ適宜支給額ヲ定ムヘシ

第五條 交通至難其ノ他特別ノ事情アリテ第二條第三條又ハ第四條ノ日額ニ依リ難キ地方ニ在リテハ認可ヲ經テ日額一圓五十錢迄ヲ支給スルコトヲ得

樟腦事務局及鹽務局直轄區域内ノ巡回ニシテ前項日額旅費ノ規定ヲ適用シ難キ事情アルトキハ認可ヲ經テ普通旅費ヲ支給スルコトヲ得

第六條 第二條乃至第四條ニ該當スル用務以外ノ場合ニシテ旅費定額ノ減少又ハ日額旅費ノ特定ヲ必要ト認ムルトキハ適宜其ノ支給額ヲ定ムルコトヲ得

第七條 他官廳ノ職員ニシテ囑託ヲ受ケタル用務ノ爲旅行スルトキハ本官相當ノ旅費ヲ支給ス

第八條 内國旅費規則第九條ニ該當スルトキハ高等官ニハ一日四十錢判任官ニハ一日三十五錢、雇員ニハ一日三十錢ノ車馬賃ヲ支給ス

第九條 在勤廳所在地ニ接續スル町村又ハ其ノ一部ニシテ所在地ニ準スルヲ適當ト認ムル區域内ノ巡回ニ前條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十條 在勤廳所在地及準所在地内ノ巡回ニシテ間税検査、輸入税拂戻調査及其ノ監督ノ場合ニハ第八條ノ車馬賃ヲ支給セス

第十一條 一日中日額旅費ヲ支給スヘキ旅行ト其ノ他ノ旅行トニ跨リタルトキハ日額旅費ノ

規定ヲ適用セス

第十二條 第二條乃至第六條ノ支給額及第九條ノ準所在地ヲ定メタルトキハ其ノ要旨及施行期日ヲ申報スヘシ

附 則

第一條 明治三十二年^ニ當省訓令第二號同三十六年^月同第四十二號及同三十八年^月同第二十八號ハ之ヲ廢止ス

第二條 従前ノ規程ニ依リ日額旅費ノ増給又ハ普通旅費支給方ノ許可ヲ經タルモノハ此ノ規程ニ依リ認可ヲ承ケタルモノト看做ス

專賣事業統一セラレ專賣局官制實施ニ付テハ旅費支給上當分從來ノ區域ニ依ルコトトシ其ノ取扱方ニ關シ左ノ通決定シタリ

專賣局長官達丙第七七三六號(明治四十年十一月六日)

本年度ニ限り旅費支給上管掌事務ノ區分ニ依リ直轄及出張所所屬區域ニ關シ左ノ通心得ヘシ

一 專賣局作業歳出支辨旅費支給規則第四條ノ所屬區域ハ從來ノ區域ニ依ルモノトス

一 樟腦事務ニ關シ本年三月大藏省訓令第六號旅費支給規程第三條ノ區域ハ舊樟腦事務局又ハ其ノ出張所所轄タリシ區域ヲ以テ其ノ所屬區域トス

一 鹽務ニ關シ同上旅費支給規程第四條ノ區域ハ舊鹽務局又ハ其ノ出張所所轄タリシ區域ヲ以テ其ノ所屬區域トス

一 專賣局官制施行ニ依リ從來ノ區域ヲ分割シ管轄ノ異リタル市町村又ハ廢止トナリタル煙草收納所、同出張所、鹽務局、同出張所、樟腦事務局、同出張所所屬タリシ區域ハ收納所長ニ於テ其ノ管掌事務ニ應シ直轄又ハ最寄出張所ノ所屬區域ニ編入シ直チニ其ノ旨申報スヘシ

一 專賣局官制施行ニ依リ管轄區域ノ異リタル爲煙草專賣ニ關スル検査取締區域ヲ特ニ設定スルノ必要アル地方アルニ於テハ其ノ市町村別耕作反別個所數耕作人員各市町村間ノ距離收納所又ハ最近出張所ヨリ其ノ最近市町村迄ノ距離ヲ取調ヘタル書類及各市町村ノ區畫位置ヲ表示セル書類ヲ添附シ特設ノ必要アル事情ヲ詳具シ稟申スヘシ

但本文取調書類ニハ其取調ヲナシタル事實ノ根據及年月日ヲ附記スヘシ

旅費支給規程第九條ニ依ル在勤廳所在地及準所在地ノ遠距離區域ハ其ノ指定方ヲ一定スル爲左ノ如ク通達セリ

專賣局長官達丙第九〇八七號（明治四十年十二月二十日）

在勤廳所在地及準所在地ノ遠距離區域ヲ左記各號ニ依リ指定シ別紙様式ニ依リ明治四十一年一月十日迄ニ報告スヘシ

但シ收納所製造所ニ在リテハ明治三十七年十月大藏省訓令第四九號「煙草專賣局作業歲出支辨旅費支給規程第九條及本年三月大藏省訓令第六號旅費支給規程第十二條ノ準所在地指定又ハ變更報告方ハ本達ニ依ルヘシ

一 在勤廳所在地及準所在地ノ市町村ニシテ在勤廳トノ往返里程カ本年四月丙第四八五號達ノ限定里程ニ達スルモノハ遠距離區域ニ指定スルコト

但シ遠距離指定區域ニ屬セサル市町村ヲ巡回シタルトキト雖モ一巡回ノ里程カ本年四月丙第四八五號達ノ限定里程ニ達シタル場合ハ遠距離ニ渉ル巡回トス

二 市以外ノ地ニシテ町村ノ區域ニ據リ難キ箇所ハ大字ニ據リ指定スルコト

三 煙草、鹽、樟腦專賣事務ヲ共ニ管掌スル官署ニ在リテハ「煙草專賣局作業歲出支辨旅費支給

規則第二條第二項ノ準所在地ト旅費支給規程第九條ノ準所在地ハ同一ノ區域トスルコ

在勤廳所在地及準所在地遠距離區域指定報告

明治何年何月何日提出

何廳

何分工場	何出張所又ハ	何廳		廳名	區分	施行月日	要旨
		準所在地	所在地				
					(大 ル 字 ト ニ キ 據 ハ リ 大 指 定 共 シ)		
					(大 ル 字 ト ニ キ 據 ハ リ 大 指 定 共 シ)		

備考

- 一 收納所ニ在リテハ本所、出張所別ニ製造所ニ在リテハ本所、分工場別ニ掲上スルモノトス
- 一 遠距離區域ニ屬セサル市町村欄ハ遠距離區域ニ指定以外ノ市町村則チ在勤廳ヨリ近距離ノ市町村ヲ掲上スルモノトス

專賣事業會計統一ノ結果煙草、樟腦專賣事業ニ屬スル旅費支給規程ヲ一定シ明治四十一年四月

一日ヨリ之ヲ施行シタリ

大藏省訓令第十四號 (明治四十一年三月二十八日)

專賣局旅費支給規則左ノ通定メ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年十月大藏省訓令第四十九號其ノ他従前ノ令達ニシテ本規則ニ抵觸スルモノハ總テ之ヲ廢止ス

專賣局旅費支給規則

第一條 專賣局作業歲出支辨ニ屬スル旅費ハ内國旅費規則及明治三十九年五月當省達往第五九八六號ニ依ルノ外本規則ニ依リ之ヲ支給ス

第二條 此ノ規則ニ於テ支部局ト稱スルハ專賣局收納所、專賣局製造所、專賣局販賣所ヲ謂ヒ支所ト稱スルハ專賣局、專賣局收納所、專賣局製造所、專賣局販賣所ノ出張所、分工場、藏置所、試驗場及專賣官吏派出所ヲ謂フ

第三條 内國旅費規則第九條ニ該當スルトキハ高等官ハ一日金四拾錢、判任官及見習員ハ一日金參拾五錢、雇員ハ一日金參拾錢ノ車馬賃ヲ支給ス但シ特別ノ事情アル地方ニ限り專賣局長官ハ特ニ金五拾錢マテヲ支給スルコトヲ得

在勤廳所在地附近ノ市町村若ハ其ノ一部ニシテ在勤廳所在地ト別ニ區分ヲ要セサルモノハ在勤廳所在地ニ準シ其ノ巡回里程遠距離ニ涉ルトキハ前項ノ車馬賃ノミヲ支給スルコトヲ得

第四條 專賣ニ關スレ検査、査定、指定引渡及專賣取締ノ爲メ其ノ區域内ノ巡回竝收納、賣渡、回送、保管及工事督役ノ爲メ支部局又ハ支所所在地若ハ其ノ他ノ用務地ニ滞在中ノ旅費ハ判任官及見習員ハ日額金壹圓貳拾錢以内雇員ハ日額金壹圓以内ヲ支給ス

第五條 前條ノ區域ハ專賣局收納所、同出張所ノ所屬市町村若ハ專賣局製造所、專賣局販賣所及其ノ分工場、藏置所ノ販賣區域トス

北海道及島嶼其ノ他特別ノ事情アル地方ニ在リテハ專賣局長官ニ於テ前項ノ區域ヲ變更シ若ハ特ニ區域ヲ設定スルコトヲ得

第六條 煙草製造作業監督ノ爲メ專賣局製造所又ハ同分工場所在地準所在地區域内ノ巡回ニシテ遠距離ニ涉ルトキ又ハ所在地準所在地ニ非ルモ陸路一里以内、汽車路五哩以内、水路五哩

以內ノ地へ出張ノ旅費ハ判任官ハ車馬賃又ハ日額金四拾錢以內、雇員ハ車馬賃又ハ日額金參拾錢以內、其ノ以外ノ地へ出張ノ旅費ハ判任官ハ日額金八拾錢以內、雇員ハ日額金六拾錢以內、專賣局製造所又ハ同分工場所在地以外ノ作業場所在地ニ常時駐在中ノ旅費ハ判任官ハ日額金七十錢以內、雇員ハ日額金六拾錢以內ヲ支給ス

在勤廳所屬以外ノ作業場所在地ニ滞在中ノ旅費ハ判任官ハ日額金壹圓、雇員ハ同金八拾錢ヲ支給ス

第七條 專賣ニ關スル検査査定、指定引渡及專賣取締ノ爲メ各區間ノ旅行ニハ日額旅費ノ規定ヲ適用セス、其ノ區域内ノ巡回ト一日中ニ跨リタルトキ當日分ノ旅費ニ付テモ亦同シ

第八條 專賣ニ關スル事項ノ講習又ハ練習ノ爲メ其ノ講習地若ハ練習地ニ滞在中ノ旅費ハ判任官又見習員ハ日額金壹圓貳拾錢以內、雇員ハ日額金壹圓以內ヲ支給ス

見習員實地練習ノ爲メ出張ノ旅費ハ日額金壹圓以內ヲ支給ス

第九條 生産費調査、試験地監督及耕作栽培並製鹽改良ノ指導獎勵ノ爲メ收納所、出張所所屬區域又ハ特設區域内ノ巡回旅費ハ判任官ハ日額金壹圓、雇員ハ日額金八拾錢ヲ支給ス

第十條 特別用途鹽ノ検査及取締ノ爲メ常時其ノ用務地ニ駐在中ノ旅費ハ判任官ハ日額金七拾錢以內、雇員ハ日額金六拾錢以內ヲ支給ス

第九條ノ用務ニ依リ一定ノ地ニ駐在中ノ旅費亦前項ニ同シ

第十一條 專賣局支部局又ハ支所員ニシテ交互兼勤シ其ノ兼勤廳所在地滞在中ノ旅費ハ判任官及見習員ハ日額金壹圓、雇員ハ日額金八拾錢ヲ支給ス

第十二條 他廳勤務ノ職員ニシテ囑託ヲ受ケ其ノ用務ニ依リ旅行スルトキハ前各條ニ準シ本官相當ノ旅費額ヲ支給ス

前項以外ノ囑託員ニシテ其ノ囑託事務ノ爲メ旅行スルトキハ特ニ定ムルモノノ外月額百圓以上ノ者ハ奏任官月額參拾圓以上ノ者ハ判任官月額參拾圓未滿ノ者ハ雇員ト同一ノ旅費額ヲ支給ス

第十三條 第五條ニ依ル所屬市町村及第三條第二項ニ依リ在勤廳ト區分ヲ要セサルモノハ支部局長之ヲ定メ專賣局長官ニ報告スヘシ之ヲ改定シタルトキ亦同シ

第十四條 第四條第六條第八條第十條ノ支給額ハ專賣局長官ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ

第十五條 旅費額ヲ減少セムトスルトキ又ハ別ニ日額旅費ヲ設ケムトスルトキ若ハ特別ノ事情ニ依リ日額旅費、日額車馬賃ヲ増額セムトスルトキ及日額旅費ノ規定ヲ適用シ難ク普通旅費ヲ支給セムトスルトキハ經伺ノ上專賣局長官ニ於テ其ノ支給額及施行期日ヲ定ムヘシ

附 則

從前ノ規定ニ依リ經伺ノ上定メタル特別支給額及第五條ニ依ル所屬市町村竝特設區域ハ明治四十一年四月三十日マテハ從前ノ例ニ據ル

旅費支給規則改正ニ依リ車馬賃及日額旅費額左ノ通令達シタリ

專賣局長官達丙第二二九七號 (明治四十一年三月三十日)

專賣局旅費支給規則第三條但書及第十四條ニ據リ旅費支給額左ノ通定メ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一 專賣局旅費支給規則第三條第一項但書ニ依リ東京市、大阪市、橫濱市、神戸市ニ限り高等官ハ金五拾錢判任官及見習員ハ金四拾錢雇員ハ金參拾五錢ノ車馬賃ヲ支給ス
- 二 專賣ニ關スル検査査定及專賣取締ノ爲メ其ノ區域内ノ巡回

判 任 官

日 額 金 壹 圓

雇員

日額 金八拾錢

三 收納、賣渡、回送、保管及工事督役ノ爲メ支部局又ハ支所所在地若ハ其ノ他ノ用務地ニ滞在

中及指定引渡ノ爲メ其ノ區域内ノ巡回

判任官及見習員

日額 金九拾錢

雇員

日額 金七拾錢

四 煙草製造作業監督ノ爲メ製造所又ハ分工場所在地準所在地ノ巡回ニシテ遠距離ニ涉ル

トキ又ハ所在地準所在地ニ非サルモ陸路一里以内、汽車路五哩以内、水路五哩以内ノ地へ

出張

東京市、大阪市ハ 日額 金四拾錢

判任官

名古屋市、京都市、熊本市ハ 日額 金參拾五錢

其ノ他ハ 日額 金貳拾五錢

東京市、大阪市ハ 日額 金參拾五錢

雇員

名古屋市、京都市、熊本市ハ 日額 金參拾錢

其ノ他ハ 日額 金貳拾錢

五 同上ノ爲メ製造所又ハ分工場所在地外ニシテ前項後段ニ該ラサル地へ出張

判任官

日額 金七拾錢

雇員

日額 金五拾錢

六 同上ノ爲メ製造所又ハ分工場所在地準所在地外ノ作業場所在地へ常時駐在中

判任官

日額 金六拾錢

雇員

日額 金五拾錢

七 專賣ニ關スル事項ノ講習又ハ練習ノ爲メ講習地若ハ練習地ニ滞在中

判任官及見習員 日額 金 壹 圓

雇員 日額 金 八 拾 錢

八 見習員實地練習ノ爲メ葉煙草耕作地へ出張ノ旅費ハ日額金九拾錢

九 特別用途鹽ノ檢査及取締ノ爲メ常時其ノ用務地ニ駐在中

判任官 日額 金 五 拾 錢

雇員 日額 金 四 拾 錢

十 耕作及栽培ノ指導獎勵ノ爲メ一定ノ地ニ駐在中

判任官 日額 金 六 拾 錢

雇員 日額 金 五 拾 錢

鹽務ニ關スル出張旅費ニ日額ヲ設定スルノ要アリトシ旅費支給規則中左ノ通改正セラレタリ

大藏省訓令第二十九號 (明治四十一年五月三十日)

明治四十一年^三大藏省訓令第十四號專賣局旅費支給規則中左ノ通改正シ明治四十一年六月一

日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中查定ノ次ニ「收納賣渡」ノ四字ヲ加ヘ尙左ノ一項ヲ加フ

前項用務ノ爲メ官用ノ船舶ニ乗用シ在勤廳所在地及準所在地以外ノ沿海ヲ巡回シタルトキ

ハ判任官及見習員ハ日額金七拾錢以內雇員ハ金六拾錢以內其ノ乗組水夫ハ日額金四拾錢以

内ヲ支給ス

第七條ヲ削リ第八條第九條ヲ順次繰上ク

第八條中判任官ノ次ニ「及見習員」ノ四字ヲ加ヘ尙左ノ二項ヲ加フ

鹽ノ品質、價格、移出、包裝用品、副產物及鹹水、土壤製鹽場ノ調査並鹽ノ改装、變性執行處理監督等ノ爲メ、收納所出張所所屬區域又ハ特設區域内ノ巡回旅費亦前項ニ同シ

前二項ノ外之ニ類スル用務ノ爲ニスル巡回ニ關シテ日額旅費ヲ設クル必要アルトキハ本條金額ノ範圍内ニ於テ專賣局長官適宜之ヲ定ムルコトヲ得

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九條 各區域間ノ旅行ニハ日額旅費ノ規定ヲ適用セス其ノ區域内ノ巡回ト一日中ニ跨リタルトキ當日分ノ旅費ニ付テモ亦同シ

第十條中第九條ヲ第八條ニ第十四條中第八條ヲ第七條ニ改ム

旅費支給規則改正ノ爲日額支給額中左ノ通改正セリ

專賣局長官達丙第四二六二號 (明治四十一年五月三十日)

本年^三月丙第二二九七號達中左ノ通改正シ明治四十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三號其ノ他ノ用務地ニ滞在中及ノ次ニ「收納、賣渡」ノ四字ヲ加フ

第一〇號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

一一 第二、第三ノ用務ノ爲官用ノ船舶ニ乗用シ在勸廳所在地及準所在地以外ノ沿海ヲ巡回

判任官及見習員

日額 金五拾錢

雇員

日額 金四拾錢

乗組水夫

日額 金貳拾五錢

專賣局官制改正ニ伴ヒ旅費支給規則施行ニ關シ各支部局ニ對シ心得方左ノ通達シタリ

專賣局長官達丙第二五六六號 (明治四十二年四月五日)

今般勅令第二十八號ヲ以テ專賣局官制中改正ニ伴ヒ專賣地方機關ノ廢置變更其ノ他ヲ被定候

ニ付專賣局旅費支給規則ノ施行ニ關シ左ノ通心得ヘシ

一 收納所ノ出張所カ專賣支局ノ專賣官吏派出所又ハ臨時葉煙草若ハ鹽ノ取扱所トナルモノ及廢止ノ箇所ニシテ本年四月三十日迄ニ別段ノ手續ヲ了ヘサルモノハ勅令第二十八號竝大藏省令第十一號施行前日現在ノ所屬町村ヲ以テ本年四月一日ヨリ第五條第二項ノ特設區域ヲ設置シタルモノト見做ス

二 鹽ノ販賣所若ハ藏置所ニシテ專賣支局ノ出張所トナルモノ及製造所ノ支所ハ其ノ所屬町村竝販賣區域ヲ以テ第四條ノ區域トス

三 收納所カ專賣支局ノ出張所トナルモノ及收納所ノ出張所カ專賣支局トナルモノニシテ本年四月三十日迄ニ別段ノ手續ヲ了ヘサルモノハ勅令第二十八號竝大藏省令第十一號施行前日現在ノ所屬町村ヲ以テ第四條ノ區域トス

四 官制改正竝大藏省令第十一號ノ結果ニ依ルモノ及特別ノ事情アリテ此際所屬町村若ハ特設區域ノ變更又ハ設置ヲ必要トスルモノハ速ニ報告稟議ノ手續ヲ爲スヘシ
見習員ノ實地練習ハ葉煙草ノミニ限定セラレシモ專賣統一ノ結果鹽ノ實地練習モ之ニ包含セシムルコトトシ旅費支給額中左ノ通改正セリ

專賣局長官達丙第三一七八號 (明治四十二年四月二十三日)

明治四十一年^三長官達丙第二二九七號左記「八」ノ中葉煙草耕作地ヘ「ノ七」字ヲ削ル
旅費支給規則中日額増加ノ必要ヲ認メ左ノ通改正セリ

專賣局長官達丙第四五五七號 (明治四十二年六月二十八日)

明治四十一年^三達丙第二二九七號中左ノ通改正シ明治四十二年七月一日ヨリ施行ス

「分工場」トアルヲ總テ「支所」ニ改ム

第一號中東京市ノ下「大阪市、横濱市、神戸市」トアルヲ「横濱市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市」ト關
市門司市、福岡市、長崎市、函館區ニ改ム

第二號ヲ左ノ如ク改ム

專賣局旅費支給規則第四條第一項ノ旅費

判任官及見習員

日額 金 一 圓

雇 員

日額 金 八 十 錢

第三號ヲ削ル

第四號日額金二十五錢ヲ三十錢二十錢ヲ二十五錢ニ改ム

第九號ヲ左ノ如ク改ム

專賣局旅費支給規則第八條ノ用務ニ依リ一定ノ地若ハ特別用途鹽ノ検査及取締ノ爲常時其ノ

用務地ニ駐在中

判 任 官

日額 金 五 十 錢

雇 員

日額 金 四 十 錢

第十一號中「第二、第三」トアルヲ「專賣局旅費支給規則第四條第一項」ニ改ム

明治四十二年五月樺太島ニ出張所ヲ新設セラレ專賣取締トシテ島内ノ巡回ヲ要ス然ルニ同島ハ

内地ト其ノ趣ヲ異ニシ規程ノ日額ニテハ權衡ヲ得サルヲ以テ特ニ左ノ通日額ヲ設定セリ

專賣局長官達丙第四六七一號（明治四十二年六月二十八日）

專賣取締ノ爲メ樺太出張所所屬區域内ノ巡回旅費ハ判任官ハ日額金壹圓八拾錢、雇員ハ日額金

壹圓四拾錢ヲ支給シ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

旅費支給規程中改正ヲ要シ併セテ諸物價騰貴ノ爲日額ヲ増加シタリ

大藏省訓令第二〇號 (明治四十二年七月一日)

明治四十一年^三大藏省訓令第十四號專賣局旅費支給規則中左ノ通改正ス

第四條中專賣ニ關スル検査査定、收納、賣渡ノ下ヘ回送、保管ノ四字ヲ挿入ス

第六條中判任官ハ車馬賃又ハ日額金四十錢以内、雇員ハ車馬賃又ハ日額金三十錢以内ヲ判任官

及雇員トモ車馬賃又ハ日額金五十錢以内ニ改ム

日額旅費、車馬賃支給額ハ專賣局長官之ヲ決定シタルモ各地ノ情況ニ應シ各支部局長ヲシテ適宜之ヲ定メ認可ヲ承ケシムルヲ適當ト認メ左ノ通達シタリ

專賣局長官達丙第一五一三號 (明治四十三年三月三十日)

專賣局旅費支給規則ニ依ル車馬賃及日額旅費ノ支給額ハ各支部局長之ヲ定メ專賣局長官ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ承認ヲ受クルマテハ仍ホ從前定ムルトコロノ支給額ニ依ル

本達ハ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

明治四十一年^三丙第二二九七號達ハ之ヲ廢止ス

明治四十三年六月内國旅費規則改正セラレタル結果旅費支給規程ヲ左ノ通改定シタリ

專賣局長官達丙第三二四七號 (明治四十三年六月三十日)

專賣局旅費支給規程別冊之通相定メ來七月一日ヨリ施行ス

專賣局旅費支給規程

第一條 支部局長ヲ除クノ外支部局又ハ支署ノ職員其ノ支部局管内ニ出張スルトキハ左ノ旅

費ヲ支給ス製造所ニ在リテハ別ニ定ムル區域ヲ以テ管内ト見做ス

判任官	五級以上	三	四	五	二十五錢	一圓八十錢	一圓二十錢
	六級以下	三	四	四	二十錢	一圓二十錢	八十錢
奏任官		四	五	五	二十五錢	一圓八十錢	一圓二十錢
員		二	三	三	十五錢	八十錢	六十錢
		鐵道賃 <small>一哩</small> 二付	船賃 <small>一海里</small> 二付	車馬賃 <small>一里</small> 二付	宿泊料 <small>一夜</small> 二付	日當 <small>一日</small> 二付	

第二條 支部局又ハ支署ノ職員ニシテ其ノ支部局若ハ支部局所屬支署ニ赴任スル場合ニハ左ノ移轉料ヲ支給ス

奏任官 二十五圓以内

判任官 五級以上 十五圓以内
六級以下 十二圓以内

雇員 十圓以内

新ニ任用セラレテ赴任スル者及新ニ任用スル爲召喚セラレタル者ニハ移轉料ヲ支給セス

第三條 大藏省所管旅費支給規則第十條ニ該當スルトキハ高等官ニハ六十錢以内、判任官ニハ四十錢以内、雇員ニハ三十錢以内ノ日當ヲ支給ス

在勤廳所在地ニ準スルヲ適當ト認ムル區域内ノ出張ニハ前項ノ規定ヲ準用ス其ノ區域ハ支部局長之ヲ定メ報告スヘシ

第四條 支部局長ニ於テ旅費ノ定額ノ減少ヲ至當ト認ムルトキハ稟申スヘシ
特定ノ場合ニ於テ旅費ノ全部若ハ一部ヲ支給セサルトキハ報告スヘシ

第五條 公務ニ依リ一定地ニ常時駐在スルトキハ判任官ニハ日額七十錢以内、雇員ニハ日額六十錢以内ノ旅費ヲ支給ス

第六條 左ノ用務ノ爲出張シ支局直轄區域出張所所屬區域若ハ製造所支所ノ販賣區域内ヲ旅

行スルトキ又ハ煙草製造作業監督ノ爲出張スルトキハ判任官ニハ日額一圓二十錢以内、雇員

ニハ日額一圓以内ノ旅費ヲ支給ス但シ轉區ノ爲ニスル旅行ハ此ノ限ニ在ラス

一 專賣ニ關スル検査、査定、收納、賣渡、回送及保管

二 專賣取締

三 專賣物件ノ生産費調査、竝物價賃銀及小作料調査

四 試験地監督

五 煙草耕作、鹽及樟腦製造ノ指導獎勵、竝監督

六 煙草種子採取監督

七 煙草作柄狀況調査

八 鹽ノ指定引渡

九 鹽ノ輸移出入ノ取扱

十 鹽ノ更裝、變性執行及處理監督

十一 製鹽場ノ調査

十二 鹹水及鹽ノ品質、價格ノ調査

十三 鹽副產物及鹽包裝用品ノ調査

十四 土壤調査

特別ノ事情アルトキハ稟申ノ上、支部署局長ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス、特ニ區域ヲ定ムルコトヲ得

第七條 左ノ用務ノ爲出張シ用務地内ニ滞在スルトキハ判任官ニハ日額一圓二十錢以内、雇員

ニハ日額一圓以内ノ旅費ヲ支給ス

一 工事督役

二 專賣事業ノ講習及練習

三 勤務廳所屬以外ノ場外作業監督

四 前條ニ該當セサル賣渡、回送及保管

第八條 前二條ノ用務ノ爲官用ノ船舶ニ乗用シ航海スルトキハ判任官ニハ日額六十錢以内、雇

員ニハ日額五十錢以内、乗組水夫ニハ日額三十五錢以内ヲ支給ス

第九條 專賣局支部局又ハ支署ノ職員ニシテ交互兼勤シ其ノ兼勤廳所在地ニ滞在スルトキハ

高等官ニハ日額二圓五十錢、判任官ニハ日額一圓二十錢、雇員ニハ日額一圓ノ旅費ヲ支給ス

第十條 第五條乃至第七條ノ旅費ハ當分ノ中北海道ニ於テハ判任官ニハ一圓五十錢以内、雇員

ニハ一圓三十錢以内、千島及樺太ニ於テハ判任官ニハ二圓以内、雇員ニハ一圓五十錢以内マテ

増額スルコトヲ得

第十一條 奏任官待遇及判任官待遇ノ者ニハ本規程中各待遇官相當判任官待遇ノ者ハ判任官

六級俸以下ノ額ヲ支給ス

大藏省所管旅費支給規則別表甲額ノ旅費ヲ支給スヘキ囑託員及見習員ニハ本規程中雇員ノ

旅費ヲ支給ス

前項ニ該當セサル囑託員及給料月額三十圓以上ノ雇員ニハ大藏省所管旅費支給規則ノ例ニ

準シ本規程ニ照シ旅費ヲ支給ス

第十二條 第二條、第三條、第五條乃至第八條及第十條ノ支給額ハ支部局長之ヲ定メ認可ヲ受ク

ハシ

附 則

第二條 第三條 第五條 乃至 第八條 及 第十條 ノ 支給額 ニ 付 認可 ヲ 經ル ニ 至ル 迄 其ノ 旅費 ノ 支給額
ハ 本規程 ノ 範圍 內ニ 於テ 支部局長 之ヲ 定ムル コトヲ 得

專賣局旅費支給規程說明

本規程ニ於テハ舊規則第一條及第二條ニ該當スル明文ヲ設ケス、是レハ解釋上舊規則ト同一ノ精神ニ歸シ一ハ已ニ概括的ノ一般規定アルニ至リタルカ
爲メナリ

第一條 支局ニ於ケル管内出張ニ關スル規定ニシテ經費節約ノ爲メ其ノ用務ノ性質如何ヲ問ハス旅費ノ定額ヲ減少シタリ

第二條 支部局ト其ノ所屬支署間若ハ所屬支署相互間ノ赴任ノ場合ニ限り移轉料ニ特別ノ制限ヲ加ヘタリ、蓋シ管内各官署相互間ニ在リテハ其ノ距離概
ネ遠キニ互ラス一般のニ之ヲ制限シ得ルノ餘地アルト經費節約ノ必要ニ由リ之カ最高額ヲ限定シタリ而シテ此最高額ノ範圍内ニ於ケル實施額ハ各支部
局長ニ於テ各場合ヲ豫想シ標準額ヲ定メ長官ノ認可ヲ受クヘキコトハ後條規定スルトコロナリ管外轉任ノ場合ニ於ケル給與額ニ付キテハ本局ニ於テ一
定ノ標準ヲ定メ通牒ノ見込ナリ

新任者及新任ノ爲召喚セラレタル者ニハ移轉料ノ恩典ヲ認ムルノ必要ナク之ヲ支給セサルコトトセリ

第三條 舊規則第三條ト大體ニ於テ其ノ趣旨ヲ同シクシ内國旅費規則第九條及大藏省所管旅費支給規則第十條ニ適應ス、此場合ニ於ケル支給日當額ハ内
國旅費規則第十九條及第九條ノ規定ニ依リ本規程第一條所定ノ日當定額ノ半額ヲ超過スルコトヲ得サルカ故ニ本條規定額以上ニ昇ルコト能ハサルモ
トス

本條第二項ニ於ケル區域ノ範圍ハ必スシモ之ヲ其ノ所在地附近ノ市町村又ハ其ノ一部ニ限定スルノ必要ナシ、直接所在地ニ隣接セス若ハ其ノ市町村ニ
屬セサル海面其ノ他ノ部分タリトモ苟クモ在勤廳所在地ニ準スルヲ適當ト認ムル場合ニ於テハ凡テ前項ノ規定ヲ準用セムトスルノ趣旨ニ外ナラス

第四條 内國旅費規則第十七條第二項及大藏省所管旅費支給規則第十二條ニ基ク規定ナリ

第一項 定額ノ減少トハ一般ニ内國旅費規則並本規程及本規程ニ依リテ定メタル旅費ノ定額ヲ減少スル場合ヲ意味ス、此場合ニ於テハ支部局長ハ本局
ニ稟申シ其ノ認可ヲ仰カサル可カラズ

第二項 特定セル各箇ノ場合ニ於テ臨機ノ必要ニ依リ旅費ノ全部若ハ一部ノ支給ヲ見合セムトスル場合ニ於テハ支部局長限りノヲ處分スルコトヲ認メ
タリ、此場合ニ於テハ支部局長ハ相當ノ期間内ニ取纏メテ之カ報告ヲ爲セハ足レリ

第五條 公務ノ爲メ常時駐在スル場合ノ規定ニシテ期間ノ長短、駐在地ノ都鄙及其ノ用務ノ性質如何ヲ論セス凡テ日額ヲ以テ駐在期間ノ旅費ヲ律スルコ
トト爲セリ

茲ニ所謂常時駐在トハ繼續的用務ノ爲期間ノ定メナク駐在スル場合ヲ意味ス、駐在者其ノ人ノ駐在期間ノ如キハ固ヨリ駐在ノ性質ヲ定ムルニ付キ關係
ナキモノトセリ

一定區域ヲ巡回スル爲ニ駐在ヲ命セラレタル場合ニ於テ其ノ區域ヲ巡回スルモ亦駐在ナル文字中ニ包含セラレルモノトス

第六條 用務ノ種類及旅行區域ヲ限定シ以テ日額支給ノ場合ヲ規定セリ、其ノ用務ノ種類ニ於テ舊規則ト異ナルモノアルノミナラス舊規則中ノ巡回ナル
文字ヲ廢シテ旅行ナル語ヲ用ヒタルハ畢竟巡回ト云フトキハ字義聊狹キニ失スルノ嫌アルカ故ナリ、旅行トハ廣キ意味合ニシテ其ノ區域内ニ滞在スル

日數ヲモ包含スルモノト解ス可キナリ

本條以下支給日額ハ概シ舊規定ト其ノ最高額ヲ同フセリ之レ舊規定ニ於テ實施額ハ常ニ最高額以下ナルカ故ニ更ニ最高額ヲ増加スルノ要ナシト認メタルニヨル

本規程ニ於テハ舊規則第九條ニ相當スル規定ヲ省キ本條但書ヲ加ヘタリ其ノ列記用務ノ爲ニスル區域内ノ旅行ト轉區旅行ト一日中ニ跨リタル場合ニ於テハ大藏省所管旅費支給規則第十五條ニ依リテ決スヘキナリ、尙ホ本條ニ所謂煙草製造作業監督中ニハ第七條第三號ヲ含マサルモノト解セサル可カラズ

第七條 一定ノ用務ノ爲出張シ用務地内ニ滞在スル場合ノ日額旅費ノ規定ナリ、舊規則ハ同一用務ニ關シ巡回滞在雙方ノ場合ヲ規定スルモ二者ノ區別ハ實際明確ナリト言フコト能ハス故ニ本規程ハ一方ニ於テ旅行ト滞在トヲ分ツト共ニ他方ニ於テ其ノ用務ノ種類ヲ截然區別シ以テ重複スルコトナカラシメタリ、尙ホ本條ニ於テハ特定區域ヲ認メサルヲ以テ滞在在地迄ノ往復ニ付テハ常ニ普通旅費ヲ支給セサルヘカラスモ滞在ナル文字ハ用務地内ニテ巡回スル場合ヲモ包含スル意義ナルコト固ヨリナリ

之ヲ要スルニ本規程ハ第六條、第七條ノ區別ヲ巡回ナルカ滞在ナルカ換言スレハ旅行ノ狀況如何ニ求メムトスルニアラスシテ専ラ用務ノ種類性質ニ著眼シ滞在ヲ條件トシテ旅費支給ノ範圍ヲ伸縮セムトスルノ精神也

本條第四號ニ於テ前條ニ該當セサル賣渡云々トアルハ特定區域内ノ出張ニアラサル場合ヲ意味ス

第八條 本條ハ日額主義ナルヲ以テ内國旅費規則第四條第二項ノ規定ハ其ノ適用ナシト雖本條ト第六條若ハ第七條トカ互ニ競合シタル場合ニ於テハ大藏省所管旅費支給規則第十五條ノ適用アルコトニ注意セサルヘカラス、又當旅行ニシテ若第三條ニ該當スル場合ニ於テハ本條ニ依ラス同條ノ日當ヲ支給スヘキコト勿論ナリ

第九條 舊規則第十一條ト其精神ヲ同シクシ、金額以外高等官ヲ加ヘタルノ點ハ舊規則ト異ナル所也、本條ノ支給額ハ決定的ナリト雖本規程第四條ノ適用ヲ除外スルモノニアラサルコトヲ注意セサル可カラズ

第十條 北海道千島及樺太ニ於ケル支給額ノ増加ヲ認メタリ蓋シ是等ノ地方タル内地ト其ノ事情ヲ異ニスルニ由ル、而カモ本條ニ於テモ亦單ニ其ノ増額ノ限度ヲ規定スルニ止メ以テ實情ヲ斟酌シ緩急ニ應ジ伸縮スルノ餘地ヲ存シタリ

第十一條 第一項ハ委任官待遇及判任官待遇ノ者ニ對スル支給額ヲ規定セリ、本規程ニ於テハ委任官ニ付テハ本規程中階級ヲ設ケサルヲ以テ其ノ待遇者ニ就テモ亦何等ノ區別ヲ爲サス皆委任官相當ノ旅費額ヲ支給スルコトトセリ

見習員ニ付テハ大藏省所管旅費支給規則及本規定共ニ之ヲ雇員ト同一ニ遇スルコトニ改メタリ

次ニ本條第三項ニ於テハ前項ニ該當セサル囑託員及給料月額三十圓以上ノ雇員ニ關スル支給額ヲ定メタリ即チ大藏省所管旅費支給規則第六條及第七條ノ例ニ依リ本規程ニ照シテ旅費ヲ支給スルコトトセリ、例ヘハ同規則第六條第二號及第七條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ本規程ニ於ケル判任官六級俸以下ノ旅費額ヲ支給スルコトトナリ本規定ニ照スヘキ條文ナキ種類ノ者ニ關シテハ全ク大藏省所管旅費支給規則ニ依テノミ決セラルヘシ

明治三十七年八月二十七日大臣達第八二〇三號技術者ニ關スル規程ハ依然效力ヲ有スルヲ以テ本規程ト對照シテ其ノ旅費額ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 本條ハ第二條、第三條、第五條乃至第八條及第十條ニ於ケル支給最高額ノ範圍内ニ於テ其ノ實際ノ支給額ヲ決定スルノ方法ヲ定メタリ是レ支部局長ヲシテ其ノ管下ノ實情ニ適應セシメ一方ノ節減額ヲ以テ他方ノ補填額ニ流用シ緩急相應セシムルト同時ニ本局ノ調査ニ依リ以テ全國ノ統一ヲ計リ之ニ依リテ旅費運用ノ妙ヲ得セシムトスルノ趣旨ニ外ナラス

以上ハ本規程各條ノ說明ナリ今之ヲ通觀スルニ本規程ハ舊旅費規則ト異リ各條ヲ通シテ決定的ノ支給額ヲ定メス額ル裁量ノ餘地ヲ存セリ此事タル以上屢々述ヘタルカ如ク本規程ヲシテ實地ニ鑑ミ實情ヲ察シ宜シキニ從テ増減伸縮セシメ以テ世態ノ實際ト並行調和セシメントスルノ精神ニ出ツ、支部局長タルモノハ宜シク此旨ヲ體シ細心周到各箇ノ場合ニ於テ能ク本規定ノ精神ヲ發揮シテ遺憾ナカラシムルコトニ努メサルヘカラス 以上

明治四十三年七月大藏省所管旅費支給規則第十三條ニ依ル移轉料支給額左ノ通達シタリ
 專賣局長官達丙第三四八八號(明治四十三年七月十八日)

大藏省所管旅費支給規則第十三條ニ依ル移轉料(支部局管内ノ移轉料ヲ除ク)ハ左記ニ依リ之ヲ支給ス但シ囑託員竝ニ巡視以下及傭人ニ移轉料支給ノ必要アルトキハ其ノ都度之ヲ稟申ス可シ

一 移轉料支給額ハ左ノ區分ニ依ル

區分	旅行哩數	雇員及見習員	判任官	奏任官
甲	百哩以內	八	十二圓	二十一圓
乙	二百哩以內	十	十五圓	二十五圓
丙	五百哩以內	十二	二十圓	三十五圓
丁	八百哩以內	十四	二十五圓	四十五圓
戊	八百哩以上	十五	三十圓	五十圓

二 本人以外他ニ同行スル家族ナキトキハ前項區分ニ依リ一階級ヲ下スコトヲ得

三 同行スル家族ノ數五人以上ノ場合ニ於テハ第一號區分中一階級ヲ上スコトヲ得

四 場所ニ依リ交通ノ便否ヲ斟酌シ各支給額ノ三割以內ヲ増減スルコトヲ得但シ各最高支給額ヲ超過スルコトヲ得ス

五 陸路又ハ水路ニ依ル可キ場合ニ於テハ陸路一里、水路八海里ハ鐵道十二哩ニ相當スルモノトシ之ヲ哩數ニ換算シテ其ノ支給額ヲ定ム、一旅行カ陸路、鐵道又ハ水路ニ互ルトキハ亦同シ

見習員ノ轉勤ニ對シ移轉料ヲ支給スル件左ノ通局議ヲ決定シタリ

專賣局議決定(明治四十三年七月二十日)

當局見習員カ甲支部局ヨリ乙支部局ニ轉屬スル場合ハ三十年十一月省議決定ニ依リ舊内國旅費規則第十七條ヲ準用シ新規採用ノ旅費ヲ支給セラレ居リタルモ大藏省所管旅費支給規則第十八條ノ規定ニ依リ内國旅費規則ノ規定ヲ準用スルコトナリタルヲ以テ見習員ニ對シテモ亦赴任手當及移轉料ヲ支給スルモノトス

專賣局旅費支給規程ヲ試驗場職員ニ適用スルコトトシ左ノ通決定シタリ

專賣局長官達丙第三八七九號 (明治四十三年九月十二日)

專賣局旅費支給規程中支部局ニ關スル規定ハ試驗場ニ、支部局長ニ關スル規定ハ試驗場長ニ、支部局職員ニ關スル規定ハ試驗場職員ニ適用シ同規程第一條ノ管内及同第六條ノ區域ハ試驗場ニ於テハ賣賣局直屬支署處務規程第二十九條ノ管内トス

内國旅費規則改正ノ結果鹽專賣法ニ依ル鑑定人ノ旅費支給額左ノ通改正セラレタリ

大藏省令第五十二號 (明治四十三年十月二十二日)

明治三十八年大藏省令第二十七號中左ノ通改正ス

第二條但書中「汽車賃」トアルヲ「鐵道賃」同條旅費支給額表中「汽車賃一哩ニ付四錢」トアルヲ「鐵道賃一哩ニ付三錢」十五錢」トアルヲ「二十五錢」一圓」トアルヲ「一圓二十錢」五十錢」トアルヲ「八十錢」ニ改ム

大正二年六月專賣局官制改正セラレ支局ト製造所ト併合セラレタルヲ以テ專賣局旅費支給規則中左ノ通改正シタリ

專賣局長官達丙第二四三號 (大正二年六月十四日)

專賣局旅費支給規程第一條ヲ左ノ通改正ス

第一條 支部局長ヲ除クノ外支部局又ハ支署ノ職員其ノ支部局管内ニ出張スルトキハ左ノ旅費ヲ支給ス

芝淀橋專賣支局ハ淺草專賣支局、京都專賣支局ハ大阪專賣支局ノ管轄區域ヲ以テ前項ノ管

内ト見做ス販賣事務ニ就テハ煙草又ハ鹽ノ販賣區域ヲ以テ其ノ支局ノ管轄區域ト見做シ
煙草輸入事務ノ出張ニ就テハ神戸市ハ京都支局ノ管内ニ準ス

鹽務局見習員手當支給方左ノ通達セラレタリ

大藏大臣達臨第一八三六號 (明治三十八年五月九日)

鹽務局見習員手當支給方ハ明治三十年十一月當省訓令第六十八號ニ準據スヘシ

大藏省訓令第六十八號 (明治三十年十一月四日)

葉煙草專賣所見習員手當支給規則

第一條 葉煙草專賣所見習員手當ハ毎月二十一日休日ニ當ルトキハ繰下ケトスニ支給ス

第二條 新拜命及増額減額トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算シ日割ヲ以テ支給ス

第三條 轉任若ハ罷免ノトキハ發令ノ日マテ日割ヲ以テ計算シ死亡ノトキハ當月分全額ヲ其ノ際支給ス

第四條 病氣其ノ他私事故障ノ爲出所セサルコト十五日ヨリ踰ユルモノハ半額ヲ減シ其ノ三十日ヲ踰ユルモノハ支給セス但公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病

ニ罹リ又ハ父母ノ祭日服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者竝ニ檢疫事項ニ依リ出所スルコト能ハサルモノハ此ノ限ニアラス

第五條 前條但書ノ場合ニ於テ病氣其ノ他私事故障ト連續スルモ減額トナルヘキ日數中ニ算入セス

第六條 豫備後備ノ軍籍ニアルモノ戰時其ノ他ノ場合ニ於テ召集セラレタルトキハ召集ニ應シタル翌日ヨリ出所ノ前日マテ支給ヲ停止ス

第七條 甲所ヨリ乙所ヘ轉スル場合ハ日割計算セス其ノ月分ハ支給定日ニ現在スル應ノ負擔トス但轉所ノ際増減ヲ生シタルトキハ乙所ニ於テ追給若ハ追

徴ノ手續ヲナスヘシ

第八條 手當ヲ支給スルニ當リ厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ルモノトス

日割計算ノ方法ハ其ノ月ノ現日數ニ依ルヘシ

第九條 本規則ハ明治三十年十一月ヨリ施行ス

交通至難ノ島嶼ニ設置シタル專賣官署ニ在勤スル官吏及雇員ニ對シ月手當給與方左ノ通定メラ

レタリ

勅令第一二〇號 (明治四十一年五月四日)

交通至難ノ島嶼ニ設置シタル專賣官署ニ在勤スル書記、技手及雇員ニハ別表定ムル所ニ依リ月
手當ヲ給スルコトヲ得其ノ場所及給與細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官名	金額
書記	十二圓以内
技手	十二圓以内
雇員	十圓以内

大藏省令第二四號 (明治四十一年五月五日)

明治四十一年勅令第二百二十號ニ依リ月手當ヲ給與スヘキ場所及給與細則左ノ通定ム

島嶼在勤ノ專賣局吏員月手當給與細則

第一條 月手當ハ別表ニ據リ左ノ島嶼ニ在勤スルモノニ之ヲ給ス

琉球國 宮古島 八重山島

第二條 新ニ赴任ノ者ハ任所ヘ到達ノ翌日ヨリ支給ス

第三條 兼任ノ者ニハ月手當ヲ給セス

第四條 前各條ノ外月手當支給ニ關シテハ各俸給支給ノ例ニ依ル

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官名	金額
書記	八圓
技手	八圓
雇員	七圓

鹽務局巡視以下被服規程左ノ通制定セラレタリ

大藏大臣達臨第一二三一號（明治三十八年四月一日）

鹽務局巡視以下被服規程左ノ通定メ明治三十八年度ヨリ施行ス

巡視以下被服規程

第一條 巡視小使、倉庫夫ニハ左ノ被服ヲ貸與ス

巡視 上衣、袴、外套、帽

小使及倉庫夫 法被、股引

第二條 巡視及給仕ニハ靴料金二圓ヲ六箇月毎ニ其ノ初月十日以内新拜命ノ者ニハ拜命後十日以内ニ之ヲ支給ス但シ支給前轉免又ハ死亡等ノ場合ハ之ヲ給與セス

第三條 被服ノ製式及使用期間ハ主稅局長之ヲ定ム

第四條 被服ハ新ニ採用ノトキ又ハ毎年使用期間ノ初ニ之ヲ貸與ス

第五條 使用期間ノ半ヲ經過シタル後新ニ貸與シタル被服ハ尙翌一期間繼續使用セシメ該期

ニハ別ニ貸與セサルモノトス

第六條 使用期間ノ經過シタル被服ハ徽章ヲ除クノ外之ヲ使用者ニ給與ス

第七條 轉免又ハ解備ノトキ使用期間ニ係ル被服ハ其ノ際之ヲ還納セシムヘシ

在職中死亡シタルモノハ徽章ヲ除クノ外還納セシムルニ及ハサルモノトス

第八條 使用期間内ノ被服ニシテ故意又ハ過失ニ因リ亡失毀損シタル者アルトキハ之ヲ辨償

セシムルモノトス

第九條 雨衣及冠笠ハ必要ノ時々小使及倉庫夫ニ之ヲ貸與ス

大藏省主稅局長通牒臨第一二六七號（明治三十八年四月一日）

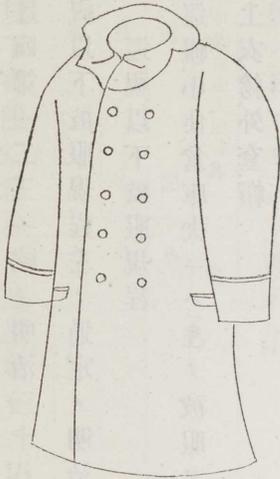
鹽務局巡視以下被服規程第三條ニ依ル被服ノ製式及使用期間別紙ノ通相定候
右及通牒候也

追テ土地ノ情況ニ依リ本文ノ製式及使用期間ニ依リ難キ向ハ豫メ變更ノ義申報ノ上施行セラレ可然又徽章ハ「便宜東京局ニテ取纏注文ノ義協議取計置候ニ付同局ニ對シ其箇數ヲ通報セラレ」被服費ヲ以テ支出セラルヘク此旨申添候

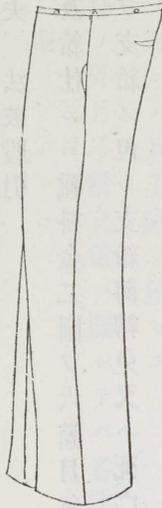
巡視服裝式

- 一 上衣、袴地質冬期表濃紺雲齋裏白紋羽夏期白雲齋
- 一 外套(頭巾)地質濃紺絨
- 一 上衣、外套袖章各白線五分一條ヲ付ス
- 一 帽地質黑絨周圍ニ白線五分一條ヲ付ス
- 一 帽徽章櫻花形中ニ鹽(篆書)字ヲ現出シタル金色金屬トス
- 一 鈕釦櫻花金色箇數圖ノ如シ

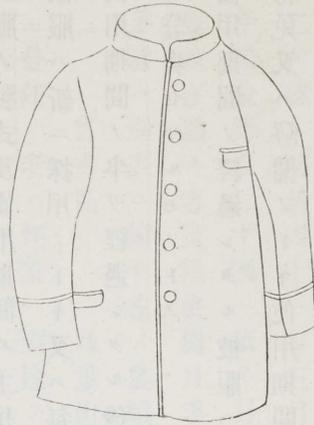
前 外
面 套



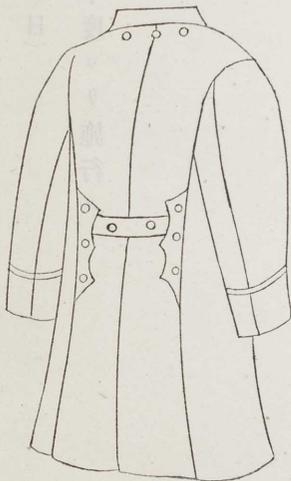
袴



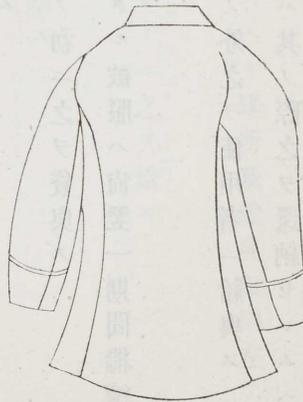
上衣前
面



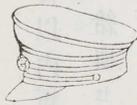
後 外
面 套



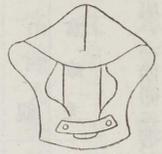
上衣後
面



帽



頭巾

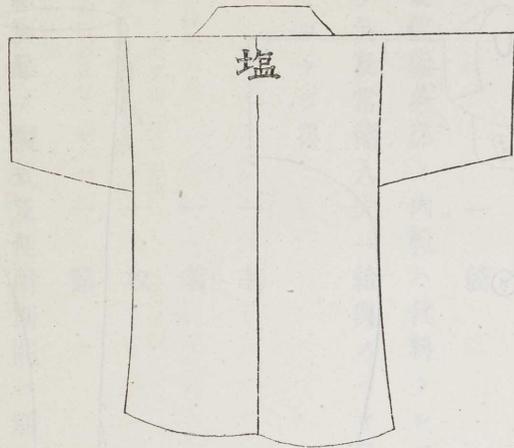


小使及倉庫夫服装式

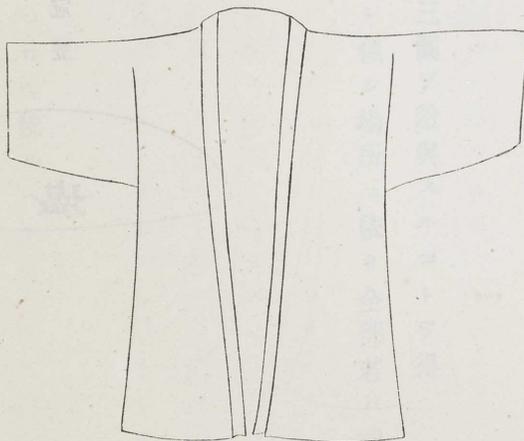
- 一 法被、股引地質、冬期表紺木綿裏淺黃木綿夏期紺木綿
- 一 冠笠、竹製紺木綿覆

- 一 法被後面及冠笠前面徽章ハ櫻花形中ニ鹽(篆書)字ヲ現出シタル銀色金屬トス
- 一 雨衣、桐油製筒袖合羽

法被後面



法被前面

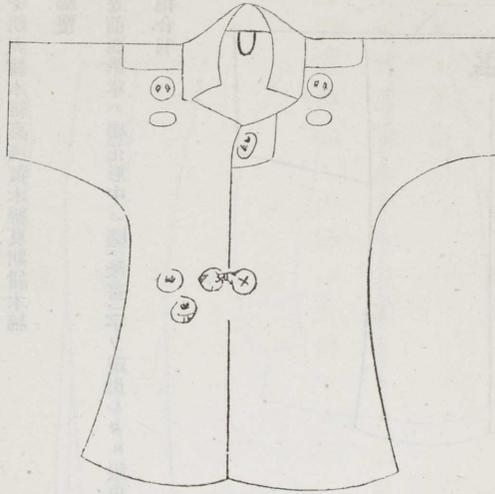


備考
一巡視夏服ハ一期間ニ著ヲ交付スルモノトス

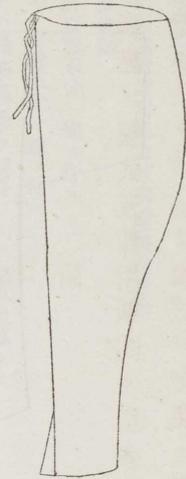
巡視	夏服	自六月四箇月 至九月四箇月
小使及倉庫夫	冬服	自五月八箇月 至翌年五月八箇月
	外套	滿二年
	帽子	滿一年

被服使用期間

雨衣



股引



冠笠



右被服規程ハ專賣事業統一ト共ニ之カ一定ヲ要スルモノトシ左ノ通改正セラレタリ

大藏大臣達往第一四八二四號（明治四十年十月一日）

巡視小使及常備人夫給與品規程左ノ通改定ス

專賣局巡視小使及常備人夫給與品規程

第一條 巡視ニ給與スヘキ品目左ノ如シ

一 夏服 一 著

一 冬服 一 著

一 靴 一 足

一 外套 一 枚

一 帽 一 箇

第二條 前條給與品ノ内靴ハ代料トシテ一箇年金三圓ヲ給與スルコトヲ得

第三條 小使及常備人夫ニ給與スヘキ品目左ノ如シ但シ場所ニ依リ全部若ハ或一部ノ者ニ給

與セサルコトヲ得

一 夏服 一 著

一 冬服 一 著

一 雨衣 一 枚

一 冠笠 一 箇

第四條 給與品ノ製式及使用期間ハ別表定ムルトコロニ依ルヘシ

各地ノ情況ニ依リ前項ノ製式ヲ變更シ又ハ使用期間ヲ伸縮變更スルコトヲ得此ノ場合ニ於

テ專賣局收納所專賣局製造所專賣局販賣所又ハ專賣局伏見分工場ニ係ルモノハ製式ノ變更

ハ專賣局長官ニ稟申シ使用期間ノ伸縮變更ハ其ノ旨專賣局長官ニ申報スヘシ

第五條 給與品ハ新タニ採用ノトキ及毎年使用期間ノ始ニ之ヲ給與ス

第六條 使用期間ノ半ヲ經過シタル後新ニ給與シタル給與品ハ尙翌一期間繼續使用セシメ該

期ニハ別ニ給與セサルモノトス

第七條 轉免又ハ解備ノトキ使用期間内ニ係ル給與品ハ其ノ際之ヲ還納セシムヘシ但シ專賣

局專賣局收納所專賣局製造所專賣局販賣所又ハ專賣局伏見分工場雙互間轉勤ノ場合ハ此ノ

限ニ在ラス其ノ在職中死亡シタルモノハ帽章ノ外總テ還納ヲ要セサルモノトス

第八條 使用期間内ノ給與品ニシテ過誤怠慢ノ爲メ亡失毀損シタルモノアルトキハ其ノ責ニ

任セシム

第九條 給與品ノ修補ハ總テ使用者ノ自辨トス

第十條 第一條乃至第三條ニ規程シタルモノノ外給與ヲ要スルモノアルトキハ經伺ノ上專賣

局長官ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

附 則

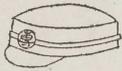
第十一條 本令施行前ニ於テ調製若ハ給與濟ノモノハ尙ホ期間中其ノ儘使用セシメ新規調製

ノ分ヨリ本規程ニ依ルヘシ

職 名	品 名	品 質	及 製 式	使用期間	形 狀
巡 視	夏 服	紺雲齋地背廣形上衣 白雲齋地袴		自至 六九 月月	如 圖
	冬 服	紺雲齋地背廣形裏付上衣及袴		自至 十 月月	如 圖
	帽	黑羅紗小判形ニシテ周圍ニ幅一分ノ白線ヲ纏ヒ前面ニ眞鍮丸ニ專ノ字徽章ヲ 附ス但シ夏期ハ白布日覆ヲ附屬ス		一 箇 年	適 宜
	靴	適宜		一 箇 年	適 宜
	外 套	大羅紗眞鍮釦ヲ二行ニ五箇宛付シ頭巾ヲ附屬ス		二 箇 年	如 圖

巡視被服

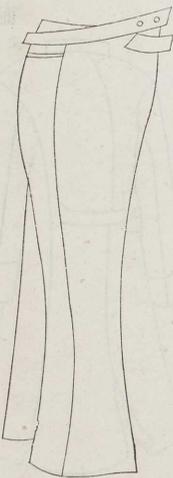
帽



章徽帽

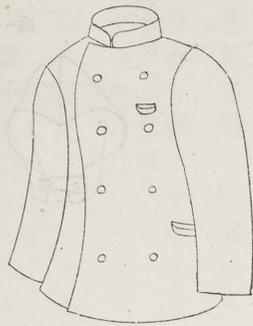


袴

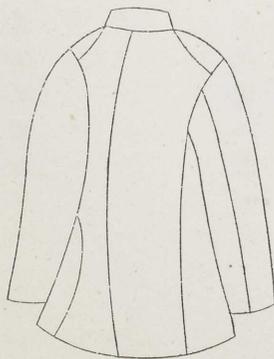


上衣

前面



後面



常備人夫				小使			
笠	雨衣	冬服	夏服	笠	雨衣	冬服	夏服
小使ノ分ニ同シ	防水布製筒袖合羽	同上裏附	小使ノ分ニ同シ但襟ニ專賣局ノ文字ヲ白字ニテ染出	竹製饅頭形ニシテ黒布ヲ覆フ	防水布製マント形	同上裏附	紺木綿筒袖法被股引但背面ニ茶褐色ノ専ノ字ノ徽章ヲ縫著ス
一箇年	一箇年	至自翌年五月	至自翌年九月	一箇年	一箇年	至自翌年五月	至自翌年九月
如圖				如圖			

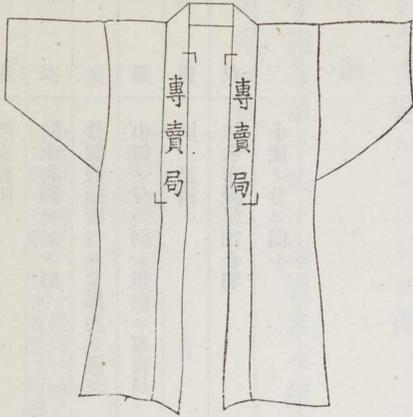
小使被服

被 法

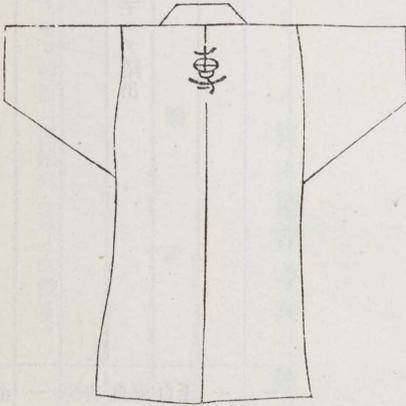
中 頭

套 外

前
面

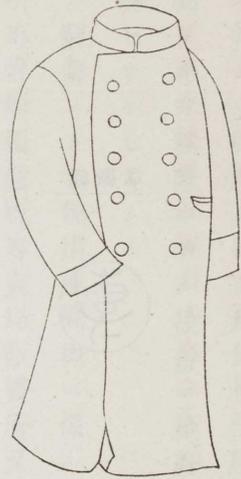


後
面

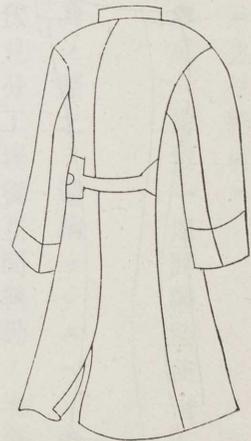


此文字ヲ襟ニ染タルハ
常備人夫ニ限り小使ニ
ハ之ヲ用ヒス

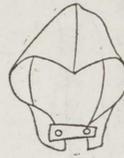
前
面



後
面



正
面



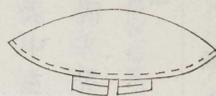
側
面



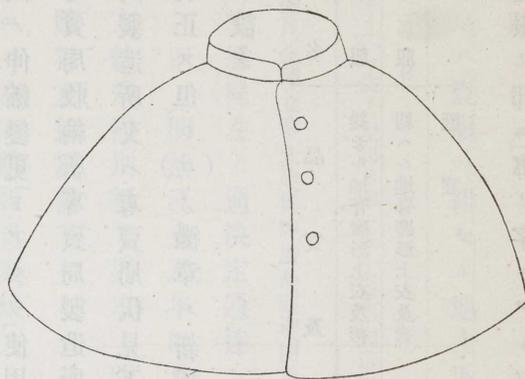
常備人夫被服

法服、股引、笠ハ小使ニ同シ

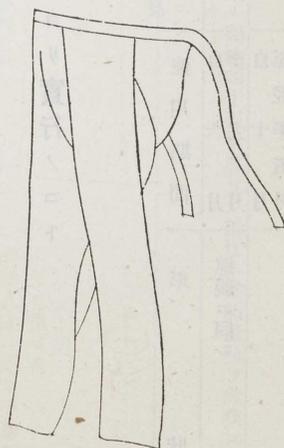
笠



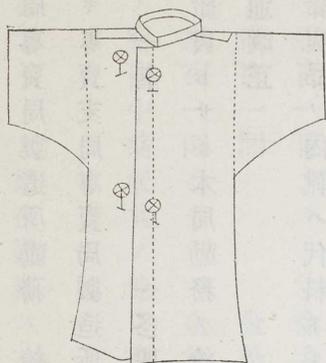
衣 雨



引 股



衣 雨



專賣局巡視小使及常備人夫給與品規程中左ノ通改正セラレタリ

大藏大臣達往第一二八〇九號 (明治四十四年十二月六日)

明治四十年十月往第一四八二四號達專賣局巡視小使及常備人夫給與品規程中左ノ通改正ス

一 規程中「巡視小使及常備人夫給與品」トアルヲ「備人給與品」ト改正

二 第一條ノ次ニ左ノ條項ヲ設ク

第一條ノ二 專賣局長官々房、食堂及開港場所在專賣支局專賣局製造所並開港場所在ニ準

スヘキ專賣支局、專賣局製造所勤務ノ給仕ニハ左ノ被服ヲ給與スルコトヲ得但シ開港場所在ニ準スヘキ專賣支局、專賣局製造所ハ專賣局長官之ヲ定メ報告スヘシ

一夏服 一著 一冬服 一著 一靴 一足

前項ノ被服ヲ給與セサル本局勤務ノ給仕ニハ靴一足ヲ給與スルコトヲ得

三 第二條ヲ左ノ通改正

第二條 前各條給與品ノ内靴ハ代料トシテ一箇年三圓ヲ給與スルコトヲ得但シ本局勤務

ノ巡視給仕ニハ一箇年四圓ヲ給與スルコトヲ得

四 第四條末段「使用期間ノ伸縮變更」トアルヲ「使用期間ノ短縮」ト改正

五 第四條及第七條中「專賣局收納所、專賣局製造所、專賣局販賣所」又ハ「專賣局伏見分工場」トアルヲ專賣支局、專賣局製造所又ハ專賣局伏見工場ト改正

六 別表中左ノ通追加改正ス但シ「ロ」ノ徽章ハ新規調製ノ分ヨリ實行ノコト

(イ) 巡視ノ次ニ左ノ項ヲ設ク

職名	品名		品質及製式	使用期間	形状
	夏服	冬服			
給	紺セル地脊廣形上衣及袴	紺セル地脊廣形上衣及袴		自六月至九月	巡視ニ同シ
靴	紺セル地脊廣形上衣及袴	紺セル地脊廣形上衣及袴		自五月至十一月	
仕	適宜			一箇年	

(ロ) 巡視帽ノ部及小使夏服ノ部ニ「專」ノ字「トアルヲ」ト改ム



(ハ) 表末ニ左ノ備考ヲ追加

一 本局勤務ノ巡視ニハ夏服ハ紺セル地上下冬服ハ紺ヘル地上下ヲ給與スルコトヲ得

專賣局長官達丙第七六六號 (明治四十五年三月一日)

專賣局巡視小使及常備人夫給與品規程第一條ノ二ニ依リ左記ノ地ニ在ル支局、製造所官署ニ於テハ來ル明治四十五年度ヨリ給仕ニ被服及靴ヲ給與スルコトヲ得

東京、橫濱、宇都宮、仙臺、函館、小樽、名古屋、神戸、金澤、京都、大阪、岡山、廣島、福岡、門司、長崎、熊本、鹿児島

鹽務局宿直及徹夜勤務賄料支給規程左ノ通決定通達セラレタリ

大藏大臣達臨第一二三一號ノ四 (明治三十八年四月一日)

鹽務局宿直及徹夜勤務賄料支給規程別紙ノ通定メ明治三十八年度ヨリ施行ス

宿直及徹夜勤務賄料支給規程

第一條 宿直及徹夜勤務者ニハ左ノ賄料ヲ支給ス

一 判任官、雇、巡視 宿直一直 金八錢

一 小使 宿直一直 金六錢

一 判任官、雇 徹夜一回 金拾五錢

一 給仕小使 徹夜一回 金拾貳錢

第二條 宿直者ニシテ宿直中病氣其ノ他ノ事故ニ因リ他ノ者ニ引繼タルトキハ後直者ニ支給ス

第三條 巡視ノ外宿直者ニシテ徹夜勤務スルトキハ徹夜ノ額ヲ支給ス

大藏大臣達臨第四〇五二號 (明治三十八年九月二十八日)

宿直及徹夜勤務賄料支給規程第一條第四號中給仕小使ノ下ニ「倉庫夫」ヲ加ヘ明治三十八年十月

一日ヨリ施行ス

大藏大臣達臨第三一六九號 (明治三十九年八月十三日)

鹽務局宿直及徹夜賄料支給規程第一條中判任官ノ下ニ「見習員」ヲ加フ
專賣事業統一ニ至リタルヲ以テ鹽專賣費支辨ニ屬スル宿直及徹夜賄料ノ支給額ヲ一定シ左ノ通
改正セラレタリ

大藏大臣達往第一四八二五號 (明治四十年十月一日)

明治三十八年四月一日達第一二三一號ノ四「鹽務局宿直及徹夜勤務賄料支給規程中一直金八錢

ヲ一直金十錢ニ一直金六錢ヲ一直金八錢ニ改正ス

一般筆墨ノ外管掌事務上特別ニ要スル文具ニ在リテハ一般官吏ト權衡ヲ得セシムル爲之ヲ官給
スルノ必要アルヲ以テ明治二十四年三月勅令第二七號ニ基キ特別用文具使用規程ヲ左ノ通制定セ
ラレタリ

大藏省訓令第三十一號 (明治三十八年四月一日)

鹽務局特別用文具使用規程

第一條 左ノ文具ハ事務上必要ト認ムルトキニ限り之ヲ使用セシムルコトヲ得

一文鎮 製圖用

一渾發 製圖用

一烏口 製圖用

一定規 製圖用

一尺度 製圖用

一繪ノ具 製圖用

一紫「インキ」 複寫用

第二條 左ノ文具ハ當該主務者ニ限り各其ノ使用制限内ニ於テ之ヲ專用セシムルコトヲ得

- 一筆 辭令用 一人一箇年六本以内
- 一墨 辭令用 一人一箇年一挺
- 一黒色「インキ」 簿記用 一人一箇年小罫六箇以内
- 一赤色「インキ」 簿記用 一人一箇年小罫二箇以内
- 一「ペン」先 簿記用 一人一箇月七本以内
- 一「ペン」軸 簿記用 一人二本
- 一丸定規 簿記用 一人一本

第三條 第一條、第二條ニ指定ノ品目外ニシテ特ニ必要ノモノアルトキ又ハ使用ノ制限ヲ超過

セシムル必要アルトキハ其ノ品目數量及用途ヲ詳悉シ認可ヲ受クヘシ

右特別用文具ノ官給ハ明治四十年年度限り廢止シタリ

專賣局計理部長依命通牒丙第四二三四號（明治四十一年五月二十九日）

明治三十七年六月十四日第四部長依命通牒第三一七三號ノ通專賣作業會計ニ在リテハ同年七月一日以後全然特別用文具ノ官給ヲ廢止セラレタルヲ以テ鹽務局特別文具使用規程ハ本年四月一日會計所屬ノ移換ト同時ニ自然其ノ適用ヲキニ至リタル義ニ有之候條御了知相成度 右依命
道テ殘餘品アラハ此際相當御處置相成可然

鹽專賣施行後各年度收支實蹟左ノ如シ

年 度	收 入	支 出	差引益金	年 度	收 入	支 出	差引益金
明治三十八年度(自六月至三月)	一三、九〇七、二一八 円	七、一九四、三四一 円	六、七一二、八七七 円	同 四十三年度	二四、六五四、三四七 円	一三、七九八、四九七 円	一一、〇六〇、一三一 円
同 三十九年度	二四、一三七、〇六五	一一、七〇二、五五九	一二、四三四、五〇六	同 四十四年度	二七、八五四、四四六	一五、二五七、四五六	一二、八四〇、三一一
同 四十年 度	二五、七六八、一六〇	一二、四七〇、三一四	一三、二九七、八四六	大 正 元 年 度	二七、〇五七、五八四	一六、八二六、九四八	一〇、二三四、八〇五
同 四十一年 度	二六、三三九、一八八	一四、四六六、三二二	一二、八九二、八六六	同 二年度(豫算)	二六、三三四、五五一	一六、三三三、〇〇三	一〇、〇〇七、一六五
同 四十二年 度	二五、三六三、三二六	一四、八三九、四四五	一一、五二四、一八〇				